

平成25年6月28日

第111号

関東の森林から



国民の森林・国有林

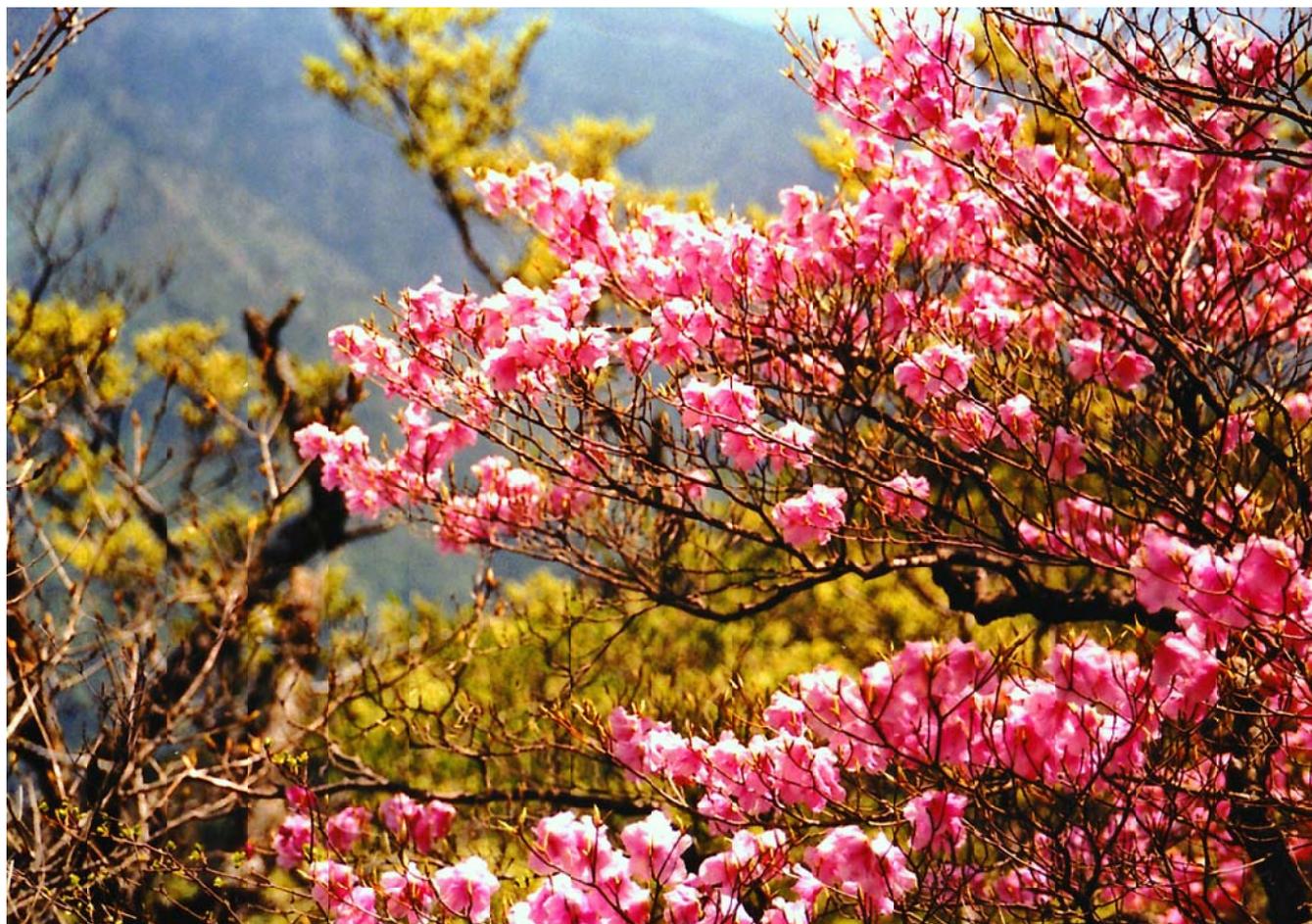
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://kokuyurin.maff.go.jp/kanto/>

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



アカヤシオツツジ（静岡県浜松市天竜区）

（撮影者：天竜森林管理署OB 尾畑 多慶氏）

「富士山」の世界文化遺産の登録と景観保全等の取組み

計画保全部 計画課

私と国有林「今ここで天城山の自然を守る努力を」

天城山の自然を守り育てる会 会長 荻原 玉夫氏

「富士山」の世界文化遺産の登録と景観保全等の取組み

計画保全部 計画課

〈富士山の世界文化遺産登録〉

平成25年6月にカンボジアのプノンペンで開催された世界遺産委員会において、富士山が世界文化遺産に登録されました。我が国の世界遺産としては17件目の登録であり、また、関東森林管理局が管理する国有林が関連するものとしては、2年前の小笠原諸島世界自然遺産に続く世界遺産の登録となります。

富士山は、我が国の最高峰（標高3,776m）であり、コニーデ型火山の秀麗な山容は、古くから信仰の対象として崇められ、数多くの芸術作品の題材とされるなど親しまれてきました。

富士山の世界遺産登録を巡っては、1990年代から地元を中心に自然遺産の登録に向けた機運が高まりましたが、ゴミ問題等で断念し、その後文化遺産の登録を目指してまいりました。昨年1月に政府はユネスコへ推薦書を提出し、同8～9月にイ



浅木塚(静岡県裾野市)からの富士山

コモス（国際記念物遺跡会議。世界遺産の諮問機関）の現地調査等を経て、今回の登録となりました。その名称は「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」と決定され、富士山城を中心とした25の構成資産は、富士山の持つ「信仰の対象」又は「芸術の源泉」の性質を満たしており、

文化遺産登録の6つの評価基準のうち、(iii)と(vi)（注）に該当するとされています。

(iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希少な存在）である。

(vi) 顕著な普遍的意義を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。

林野庁は、文化庁、環境省とともに共同推薦省庁として、地元の静岡県、山梨県や各市町村、関係団体等と連携協力しながら世界文化遺産登録に向けて取り組んでまいりました。

〈富士山の景観の保全等に向けた取組み〉

富士山世界文化遺産の構成資産の面積の大部分は森林であり、特に静岡県側の森林のほとんどは関東森林管理局が管理経営を行う国有林です。このため、富士山の景観を保全するための様々な取組みを実施しております。

・保護林の設定による森林の保全管理の推進
緩衝地帯を含む遺産地域の国有林



景観に配慮した自然石を利用した護岸工



富士山スカイライン沿線の間伐・刈り払い

において、8箇所（静岡県側7箇所、山梨県側1箇所（後述））約2千畝を保護林に設定し、厳正な保全管理を推進しています。



ボランティアによる植栽活動

・景観に配慮した森林施業や治山工事の実施

富士山スカイライン沿線では、景観に配慮しつつ形質不良木を主体とする間伐等の森林整備に取り組んでいます。

また、大沢崩れなどの富士山域において、防災・災害復旧のための治山工事を行う際には、自然石や木材を活用し景観に配慮しています。

・シカ被害対策の推進

近年、シカの生息数や分布域は富士山地域においても年々増加し、森林や農地への被害が増大しています。富士山国有林等においては、地元自治体、関係団体等と連携し、シカ



グリーンサポートスタッフによる登山者への呼びかけ

個体数管理のための誘引捕獲法やくくりワナ等による捕獲、防護柵の設置による被害の防止などの総合的な対策を推進しています。

・ボランティアの協力による台風被害地の復旧等

富士山国有林では特に平成8年の台風被害が甚大であったことから、関係機関やNPO等のボランティアと協働による植林活動等を行い、森林再生に取り組んでいます。

また、シカ被害防止のために、ボランティアによる樹木の保護テープ取り付けなどの活動が行われています。

・グリーンサポートスタッフ（GS、森林保護員）による保護活動

静岡県側の3登山口（富士宮口、須走口、御殿場口）周辺において、グリーンサポートスタッフによる登山者に対する貴重な植物の保全やゴミ不法投棄防止の呼びかけ等のPR活動を行っています。

・貴重なアカマツ林の保護・保全

山梨県側の吉田口登山道の入り口に広がる「諏訪森（すわのもり）アカマツ林」は、寛永年間（1624～1644年）の植栽記録が残る高齡アカマツ林であり、学術上貴重なことから植物群落保護林に指定し保護管理しています。

近年、松くい虫の被害が見られてきたことから、地元の関係機関等と連携し連絡会議を設置し、地域一体で防除作業を実施するなど貴重な松林の保全に努めています。



諏訪森アカマツ林

〈今後に向けて〉

世界文化遺産の登録を契機にして、従来以上に富士山の登山者や観光客の増加などが見込まれています。現在、静岡県・山梨県など関係機関からなる富士山世界文化遺産協議会において、登山者の安全確保の方策や入山規制などの課題について協議が行われております。

さらに、世界遺産委員会からは、2016年の同委員会における審査にむけて、資産の総合的な構想、来訪者戦略、登山道の保全手法などに関する保全状況報告書の提出が求められています。

関東森林管理局としても、富士山の世界文化遺産としての普遍的な価値が維持されるよう、適切な森林の保全・整備に努めるとともに、地元関係者等と連携を図り景観の保全やシカ被害対策等に積極的に取り組んで参ります。

小笠原諸島における外来種対策について

「兄島」におけるグリーンアノール対策の状況

小笠原諸島森林生態系保全センター

小笠原諸島における外来種対策等については、平成24年度の本誌上で4回にわたり関係する機関等（環境省、東京都、小笠原村、NPO法人小笠原自然文化研究所）により、シリーズでそれぞれの機関等の取り組み状況をお知らせしたところです。

そうした中、本年3月22日に父島の北側に位置する「兄島」において、これまで「兄島」には生息していないと考えられていた特定外来生物「グリーンアノール」が発見・捕獲されたことから、現在、各機関等が一丸となり、対応に取り組んでいるところです。

「兄島」は、父島列島にあり、シマイスノキが優占する乾性低木林であり、人為的影響の少ない小笠原諸島の中で最大の面積が残存している点で森林生態系保護地域の中でも重要な地域です。

○グリーンアノールとは？

イグアナ科の爬虫類で、アメリカ合衆国南東部などに自然分布しており、小笠原諸島にはグアムから貨物に紛れて運ばれたか、ペットとして持ち込まれたものが逃げたか、捨て

られたものと考えられています。国内では小笠原諸島と沖縄諸島に移入分布しています。

生態は昼行性で日光浴により体温調整しており、視覚が発達、登坂能力が高く動きが俊敏で、水面に落ちた場合は泳ぐこともできます。食性は肉食性で、主に樹上性かつ昼行性の昆虫を捕食しています。



兄島の乾性低木林(海峡の向こうは父島)

○森林生態系への影響

小笠原諸島は、海洋島であるが故に独自の進化をとげた貴重な動植物が生息している一方、環境破壊や外来種の侵入に対して極めて脆弱です。グリーンアノールは、小笠原では天敵が少ないこともあり、個体数が増え、侵入している島では希少種を含むトンボなどの昆虫類が壊滅的な打撃を受けています。

また、花粉を媒介するハチ類も捕食することから、植物の結実にも影響を及ぼすなど、森林生態系に重大な影響を及ぼします。

○対応状況

「兄島」へのグリーンアノールの侵入に対して、小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会から「非常事態



外来種対策の地下タビ洗浄

宣言と緊急提言」が出されました。対策としては、緊急事態として科学委員会の意見の下、管理機関の行政（環境省、林野庁、東京都、小笠原村）が主体となり、NPO法人等の協力も得ながら進めています。具体的には、
①分布状況の把握のための現地調査
②個体数の減少を図るためワナの設置による捕獲
③未侵入地域の保全のための侵入防止柵の設置
などの対策について、グリーンアノールの繁殖期・活動活発期（夏）までにスピード感を持って対応していくこととしています。



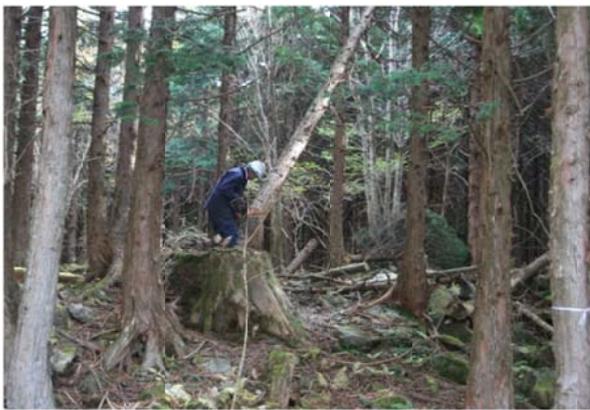
ワナ(トラップ)と捕獲されたグリーンアノール



間伐開始前にチェーンソーの使い方についての説明



水を育む森にて間伐体験①



水を育む森にて間伐体験②



清流大見川の上流部に位置する筏場のわさび田

天城山の自然を守り育てる会は、初代会長の塩谷修一氏が十数年前に白神山地を視察した際に「天城山のブナは守るだけでなく一歩進んで育てることまで考える必要がある」と感じたことが一因となり、「天城山の自然を守り育て、ブナなどの緑におおわれた天城山系と、豊かな水を取り戻すための活動をする事」を目的に平成8年に設立されました。

活動内容は、ボランティアの森などの協定を締結した国有林内の植付・管理・間伐、春秋のハイキング、中伊豆中学校の天城縦走の引率、各種イベントでのパネル写真展示による会のPR、天城山皮子平マメザクラ保護協議会への参加協力、天城ゴミ拾い大作戦への参加等々ありますが、今回は、平成18年度に協定を締結した「ボランティアの森」(面積5・16 鈔)、平成24年度に締結した「社会貢献の森」(面積5・89 鈔)の間伐作業について記します。

- 「社会貢献の森」については、全体活動計画を記します。
1. 社会貢献の森の名称、位置、面積
 2. 全体活動計画
- (1) 活動の目標
- 天城山の自然保護育成により、天
- | | |
|----|---------------|
| 名称 | 水を育む森 |
| 位置 | 筏場国有林207ぬ林小班外 |
| 面積 | 5・89 鈔 |

「ボランティアの森」については5年間の期間で間伐作業を実施完了するという事で一年に約1鈔ずつ行いました。伊豆森林管理署の方々のご指導を頂きながら12〜15人の出役で平成23年に完了しました。

城山系を水源とする狩野川をはじめ多くの河川の豊かな水確保と水害の少ないふる里づくり。
(2) 活動の内容及びスケジュール
除伐・保育間伐(平成24〜28年度)
一年次の間伐作業は平成24年11月に実施しました。

この天城山の自然を守り育てる会を設立して18年を迎えますが、平成23年に林野庁長官より国民の森林づくり推進功労者に対する感謝状を頂いたことは、日頃の活動が評価されたのだと大変嬉しく思うと同時に、未来に向かって天城山の自然を守り育てる活動が長く続きますようお願いいたします。

私と国有林

今ここで天城山の自然を守る努力を

天城山の自然を守り育てる会 会長 萩原 玉夫

森づくり最前線

棚倉森林管理署 鮫川森林事務所 森林官 蛭田 章義

私の管轄する棚倉森林管理署の鮫川森林事務所は、福島県の南部に位置する東白川郡の鮫川村にあります。

鮫川村は、阿武隈山地の南部の比較的なだらかな地形が続く高地（標高400㍍から650㍍の間）に位置しており、村全体の約60㍍が山林で、昔ながらの自然の溪流や四季折々の自然景観が残る山あいののどかな山間地域に約3,800人が在住する村です。

主に農林業を中心とした産業が主体で、水稻を中心として酪農、畜産のほか、トマトや椎茸等の生産、林業等の第一次産業が中心となっています。

鮫川村のある東白川郡周辺の気候は東北地方の中でも温暖で、肥沃な土壤が広がっていることから、スギ、ヒノキの良好な生育が見られる地域で、古くから林業経営が盛んな地域です。

また、いわき市に注ぐ鮫川の上流部であることから地域の水源としても重要な役割を果たしている地域です。

私が管轄する鮫川管内では、約3,800㍍の国有林を管理していますが、これは、鮫川村の森林の約50㍍にあたります。管理する国有林は、林地生産力も高く、スギ、ヒノキの生育は県内の他の地域と比べても良好な地域となっています。また、昔から林業が盛んな地域であったこともあり、管理する国有林の林地面積の約80㍍が人工林となっているなど、棚倉森林管理署管内でも人工林化が進んでいる地域となっています。

このようなことから、国有林の事業としては、製品生産事業を中心とした事業が盛んで主にスギやヒノキの良質な材が生産・販売されています。

この事務所に勤務してから1年となりますが、1年間を通じて、収穫量を確保するために、収穫調査に追われる毎日ですが、充実した日々を過ごしています。

今年度から国有林野事業も一般会計に移行したところですが、今後も森林官としてこれまで以上に管内の森林の状況の把握に努め、また、地元との連携を密接に行うとともに、地域の要望を広く受け止め、地元に応えることができるよう頑張りたいと思います。



鮫川村の風景



江竜田の滝(二見ヶ滝)



製品生産事業



製品生産事業

管内のいちおしスポット



岩岳山

■ 天竜森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tenryu/index.html>
〒434-0012 静岡県浜松市浜北区中瀬2663-1
TEL:053(588)5591(代表) FAX:053(588)5595

岩岳山（いわたけさん）は、標高1,369.3㍎で、静岡県浜松市の北東部、南アルプス深南部の前衛の山で天竜区春野町の北部に位置します。

この一帯は水中で堆積した泥が隆起した頁岩（けつがん）で、激しい造山運動により褶曲（しゅうきょく）し、山腹が削られ急な崖になっているところがあります、岩岳山の周辺はアカヤシオツツジの群生地と知られています。

天竜川の支流気田川は、中流域で石切川に分岐し、さらに小俣川と京丸川に分かれ、岩岳山、京丸山、高塚山、竜馬ヶ岳、入出山などの山々の源流部をなし、一帯は、ブナ、ヒメシャラ、モミ、ツガ、ハリモミなどの原生的な林分の中にアカヤシオツツジ、シロヤシオツツジが部分的に純林をなし、両種の自生地として学術上貴重なもので、昭和49年に「京丸のアカヤシオおよびシロヤシオ群生地」として、国の史跡名勝天然記念物の指定を受けています。

例年、アカヤシオツツジは4月下旬から5月中旬にかけ淡桃色の花が山肌を染め、アカヤシオツツジの花が終わるころシロヤシオツツジが白色の花を咲かせます。

また、この山々に囲まれた京丸の地は、大変険しく人の近づくことが難しい、多くの謎と伝説を秘めた場所で、その昔、若い旅人と里の娘が親しくなったのですが、里の決まりで親しくすることは許されず、二人は川の淵へ身を投げ、二人の命日が近づくと淵の周辺に大きなぼたんの花が咲くという「京丸牡丹伝説」として遠州の七不思議の1つにも数えられています。この大きな牡丹の花は、ヤシオツツジのことでは、ともいわれています。



満開のアカヤシオツツジ

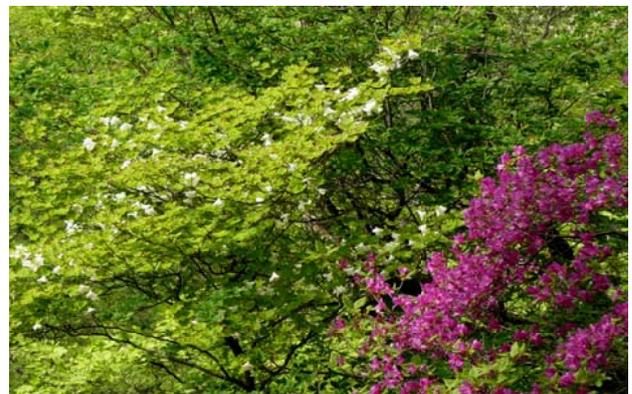
天竜区春野町石切の登山口駐車場から途中険しい箇所もあり、山頂まで往復で7時間ほどの行程で、山頂付近では春はヤシオツツジ、秋は紅葉を眺めることができます。

天竜森林管理署では、貴重な自然を後世に伝えるため森林の保全に努め、皆さんに楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

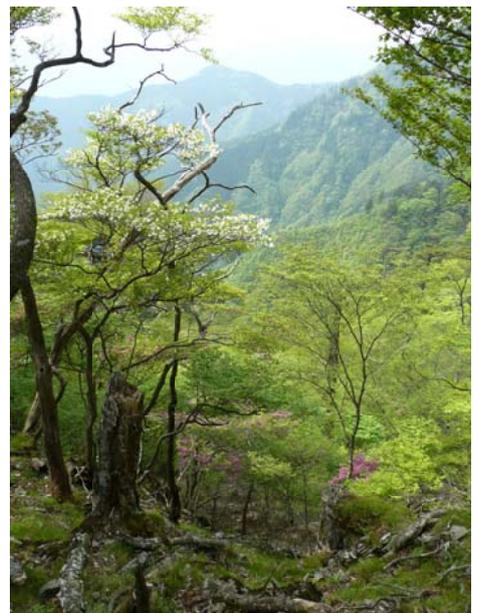
（天竜森林管理署 広報広聴連絡官 北野恭行）



岩岳山を望む



アカヤシオツツジとシロヤシオツツジの群落



アカヤシオツツジとシロヤシオツツジ



国民の森林・国有林

■ ■ 編 発
F T 行
A E 集 所
X L 総 関
(0 2 7) 東
(0 2 7) 森
2 2 務 林
3 0 0 管
・ 1 1 理
3 9 5 局
3 8 課